

# 地球の環境を考え、地域の環境をつくる

## 第11分科会

小松由人（コープながの 政策推進室）

本分科会は、環境をテーマに各地で活動する仲間が集ってもらい、様々な実践に学び、お互いの思いや情報を交流することを目指して開催しました。当初の申し込みを上回る30数名の参加者があり、創造的な実践事例の報告と相互交流を通じて、大変充実した分科会になりました。

### 事例報告

午前中は、コーディネーターの渡辺ヒデ子さん（NPO法人みどりの市民）の進行で5人の方から実践事例報告が行なわれました。

### 宮永眞彦さん（株式会社宮永兄弟商会） リユース・リサイクル

宮永さんからは、リユース・リサイクル事業の現状と行政の動向について詳細に触れながら、循環型社会を目指す上では、生活ゴミの60%を占める包装容器のリサイクル事業が中心的な役割を占めること、民営化、リユースの法制化の流れから民間のリサイクル事業が求められてくる、そのためには、リサイクル・リユース技術の向上と低費用化、行政とそうした技術を持った事業とのコーディネートが必要になることなどを報告していただきました。

### 竹内信男さん（登米町森林組合）

#### これから創る森林と人との新しい関係

竹内さんからは、宮城県の登米町森林組合の52年間に及ぶ活動と未来を見据えた「百年の森」構想を熱っぽく語っていただきました。森林に対する期待の高まりの一方で、国内の森林、林業は崩壊寸前である、これからは、人づくり・森づくり・ものづくりが大切、新しい発想に基づく時代が求める協同組合づくり、市民と異業種交流による森づくりが必要、など多くの示唆に富んだ報告をいただきました。

質疑の中で、「採算が取れないという前に、加工して付加価値をつけて売る努力が



- コーディネーター 渡辺ヒデ子 (NPO 法人みどりの市民)
- 報告者 野池良一 (NPO 法人べとの会)  
工藤孝一 (NPO 法人信州そまびとクラブ)  
傘木宏夫 (NPO 法人地域づくり工房)  
宮永眞彦 (株式会社宮永兄弟商会)  
竹内信男 (登米町森林組合)
- コメンテーター 高木直樹 (信州大学工学部)

必要」との指摘があり大変教訓的でした。登米町森林組合の52年間の歴史も絶えず新しい発想での改革の歴史であること、常に何が本質であるかを捉えながら工夫と改善を続けていることに感銘を覚えました。

## 工藤孝一さん(NPO法人信州そまびとクラブ)

### 山からの発信

工藤さんからは、所属するNPO法人信州そまびとクラブの森林整備、環境教育、ネットワーク構築、愉快的山仕事講座、木材利用推進など、様々な分野での地道な活動をご紹介いただきました。

ここで、コメンテーターの高木直樹さん(信州大学工学部)から、3者の報告に対して、ドイツとの違い、ペットボトルや瓶のリユースの障害、経済性、バイオマスのペレットなど新しい動きへの着目などについて、コメントをいただきました。

## 野池良一さん (NPO 法人べとの会)

### エコビレッジ戸隠をめざして

野池さんからは、長野県戸隠村で循環型の社会づくりを進めるNPO法人べとの会の取り組みを報告していただきました。



戸隠村の中で、観光事業から生まれる生ゴミを堆肥化し、その堆肥を活用しての野菜作りを行ない、現在、ゴミを出す事業者と堆肥を使用する農家で80軒が会員になっています。

異臭問題や多額な設備投資などの問題を工夫と努力で克服しながら活動を進めていることに共感を覚えました。

## 傘木宏夫さん(NPO法人地域づくり工房)

### 環境・福祉・学びあいの仕事おこし

#### —持続可能な社会をめざして—

これまでの地域開発は、外発的で、次世代へのツケ回し(借金)を前提に、環境や財政を疲弊させながら、結果的に首都圏への人・モノ・情報の一極集中を加速させてきました。持続可能な社会の構築が地球社会共有の課題となっている今日、私たちは足元である地域から、内発的で、自然環境との共生と資

源の循環を基調とした活動を積み上げていく必要があります。

傘木さんからは、長野県大町市において、地域の資源を見直し、その再生から内発的な仕事おこしをすすめようとするNPO活動を紹介することを通じて、上記課題に対する「協同」のあり方について報告していただきました。

農業用水路を利用したミニ水力発電や菜の花エコプロジェクト、地域通貨アルペンなどのユニークな実践報告をしていただき、「地域の資源と人材を生かした」様々な活動の可能性を感じました。

後半の二つの報告に対して、コメントーターの高木直樹さんから、いいことはわかっても匂いなどの問題がある。売れる野菜を作るということも大切、水力発電の取り組みの中に新しい仕事づくりにつながるものがあるなどのコメントがありました。

#### グループ交流

午後は、午前中の報告を基に「循環型社会づくり」と「森林整備」の二つのグループに分かれて交流しました。



#### 森林整備

NPOになることで自由になれる。活動には原動力が必要。ネットワークづくりが大切。活動を継承する次の世代をつくることが課題。

#### 循環型社会づくり

循環型農業やゴミ問題など多様なテーマがある。それぞれがそれぞれの力でやることが必要。これからは他県や技術のある人、ない人が手を結んでいく。行政の中にも何とかしたいと思っている人がいる。

#### 報告者・コメントーター・コーディネーターからのひとこと

傘木宏夫さん（NPO 法人地域づくり工房）  
時代状況から環境テーマが面白い。これからは、お金だけでなく、やりがいとか、おもしろいということが大事だ。また、地域間競争、NPO 同士の競い合いも大事だ。

#### 竹内信男さん（登米町森林組合）

大昔から豊かな自然環境によって人間の営みは潤ってきた。組織は必ず形骸化する。活動の理念をいつまでも大切にすることが必要がある。

#### 工藤孝一さん（NPO 法人信州そまびとクラブ）

自分ができることは助けてもらう。自分ができることは助けてあげる。

#### 宮永眞彦さん（株式会社宮永兄弟商会）

地域が仲良くやっていく、地域を守っていき、皆楽しくやっていくことが大事だ。

野池良一さん（NPO 法人べとの会）

各地での活動を見て勇気が湧いてきた。行政に頼めば何とかしてもらえると考えるのは、自立とは反対である。

コメンテーター・高木直樹さん（信州大学工学部）

身の回りでできることからスタートしよう。目標を決めよう。決めた目標から外れないようにしよう。

コーディネーター・渡辺ヒデ子さん（NPO 法人みどりの市民）

様々な活動があり、色が混ざり合うクレパ的な発想で、お互いの良いところを吸収しながら活動を進めましょう。